

今月のテーマ

ながさきダンカーズ

田上市長の
ホットトコク
~自らの思いを皆さんに語るコラム~

「団塊の世代」は、戦後のベビーブームのころに生まれた一番人口の多い世代です。いま65歳を過ぎたところなので、すでに仕事を退職したり、都会からふるさとに帰つてきたり、とまさしく第二の人生をスタートさせている人が大勢います。この世代の動きは、これまで常に社会に大きな影響を与えてきました。

そして今、団塊の世代とそれに続くシニア層（団塊シニア）と呼びましょうの動きが注目されています。年齢で言えば、50～60代。この年齢層の人たちの動き次第で、社会は大きく変わることになります。

* * *

長崎市の65歳以上の人口は、平成2年の国勢調査では6万5000人ほどでした。それが20年後の平成22年調査では11万人に増えました。5万人近くも増えたことになります。

そんな団塊シニアのセカンドデビュを応援する活動が長崎にあります。「ながさきダンカーズ俱楽部」といいます。団塊シニアの皆さんの中間づくり、出番づくり、居場所づくりを応援するプラットフォームとして少しずつ活動を広げています。



長崎市との協働で「ながさきダンカーズ」という情報誌も発行しています。昨年末には「ながさきダンカーズフェスティバル」を開催し、いろいろな活動をしていました。会場には「高齢者」として少しずつ活動を広げています。

ただ若くパワフルな「団塊シニア」の元気な姿は、それに続く世代にとっては「背中を見せてもらう」となります。人間の生き方として、新しいモデルになる力も持った世代なのです。

* * *

それだけではなく、まだまでも常に社会に大きな影響を与えてきました。

ただ若くパワフルな「団塊シニア」の元気な姿は、それに続く世代にとっては「背中を見せてもらう」となります。人間の生き方として、新しいモデルになる力も持った世代なのです。

セカンドライフの生き方は、実に多様です。働き続ける人、それまでの仕事の経験を生かして新しい活動を始める人、地域デビューして自治会活動などに頑張る人、ボランティア活動に参加する人、ずっとやりたくてやれなかつた夢にチャレンジする人…。

昔は「隠居」という言葉がありました。今はそんな時代ではありません。できるだけ長く元気でいて、どんどん地域に出て、社会に元気を吹き込む世代として活躍してほしいと思います。それは必ず地域や社会を今以上に健康にしていくことでしょう。

縁結びなら歴史は古い?
「月下老人」

清水寺でも発見!



グラバー園のストーンは改修のときには置かれたといいう説も



眼鏡橋の下では若いカップルが幸せを祈っていた

出かけて見る・知る
まちの
オススメ
スポットながさき
フチ
旅
行

愛がいっぱい

長崎のまち

ハートストーン

さらに、この時期の「恋の願掛け」ならランタンフェスティバルの縁結びの神「月下老人」にあやかってみるのもいい。愛のつまつた長崎のまちをさるいて、自分だけのハートストーンを見てみるのはいかがだろうか。